

令和 3 年度 国際理解行事の記録

【 2 学期 】

11 月 16 日 (火) 「EU があなたの学校にやってくる」講演会・座談会 (1 年生)

“Austria in the EU” 「欧州連合の中のオーストリア」

講師：オーストリア大使館 大使

エリザベート・ベルタニョーリ (Ms. Elizabeth Bertagnori) 氏

EU 駐日代表部が主催する「EU があなたの学校にやってくる」の一環として、1 年生を対象に講演会・座談会を実施しました。「欧州連合の中のオーストリア」と題して、欧州連合が国際社会の中で果たす役割や、新型コロナウイルス対策、オーストリアと日本の関係などについて最新事情を交えつつご講義いただきました。

講演終了後には希望者を対象に「大使に直撃インタビュー！」と題して生徒から大使に質疑応答を行う時間を設けました。周囲を海に囲まれた島国であり、その国土やそれに根差した国民文化の独立性が比較的に高い日本と、常に国境を他国と接してきた欧州諸国の違いなどについて様々な質問が飛び交いましたが、大使はご自身の経験を踏まえて「困難な中であって互いを理解し、異なる価値観を尊重する重要性」について伝えてくださいました。以下、生徒の感想を抜粋します。

「EU はただの地域連合ではなく、加盟国間の移動が自由だったり通貨が統一だったり、一つの大きな国のような印象を受けました。特に、大学の単位を他の加盟国の大学でも認められるというのには驚きました。いろんな国に往来できることで自分の世界を広げられそうです。また、ただ統一するだけでなく、それぞれの国が自国の伝統を誇りに思っているの、伝統の継承を途絶えさせずに多様性を受け入れていく、という話を聞いて、とても素敵な考えだと思いました。世界の他の地域にも EU のような連合が出来たらより良い世界になるのではないかと思います。」

「EU の成り立ちから現在の様子までたくさんを知ることができました。ヨーロッパ連合と言いながらも、一つの国家のように課題解決に取り組んでいて、その課題である環境、気候変動、エネルギー問題などに全世界が直面していることを改めて痛感しました。また一つ一つの国が小さくても、EU など親密な関係があることで、アメリカ、中国だけに力を持たせないのも大切だと思いました。日本とオーストリアではとても離れていますが、オーストリアの第 3 の貿易相手国が日本と知って驚きました。ほかにも留学の制度やサポートがあったのでぜひ参加してみたいと思いました。」



12月21日（火） 国際理解講演会

「世界の紛争地で平和構築に取り組む」

講師：認定NPO法人日本紛争予防センター（JCCP）理事長 瀬谷ルミ子さん

神戸芸術センターにて1，2年生を対象に国際理解講演会を実施しました。講師の瀬谷ルミ子さんは世界各地の紛争地帯で武装解除と平和構築に尽力されており、2011年にはNewsweek 日本版による「世界が尊敬する日本人25人」にも選出されています。

講演の中では「平和は被害者が歯を食いしばって許すことで成り立っている」というお話がありました。平和とは単に仲良くすればよいというものではなく、それに関わる兵士たちの戦争終結後の生活や、地域住民のコミュニティ再興など、取り組むべきことが多岐にわたるということを自身の経験をもとにしてお話いただきました。瀬谷さん自身が抱いていたコンプレックスや、将来に対する取り組み方、自分たちとそう変わらない年齢の少女が紛争解決に向けて自ら立ち上がる姿に、生徒たちは大いに刺激を受けたようでした。

「今までは、私たち1人1人が様々な取り組みを行ったとしても大して役には立たないだろう、何か大きな力にはならないだろう、などと半分諦めのような気持ちを感じてしまっていたのですが、今回のテロリストの話、1人の人がテロリストになるのを防ぐだけで何百人もの命を救う可能性があるということを知り、一見小さな取り組みのように見えることでも大きな力になる可能性があるということに気づくことができました。また、平和という言葉の重みについてもはっとさせられる部分がありました。私たちの考える平和と紛争影響地などの人々が考える平和の違いがあるなどとは考えたこともありませんでした。」

「人を殺した兵士たちを紛争が終わると保護しなければいけない。平和というのは大勢の人の大きな我慢などからできるもので、決して単純にきれいなものではない。というような瀬谷さんの言葉が記憶に残っている。この考え方は今まで私にはなかった。それは私が一度も紛争地に行ったことも紛争で困っている人々に会ったこともないからだと思う。今日の講演会で平和がどれほど難しいことかわかった。また、それでも平和に向けて行動し続ける人々は素晴らしいと思った。私も「平和」に何か少しでも力になれる存在になりたい。」

